

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	こぼんはうすさくら辻堂教室（児童発達支援）		
○保護者評価実施期間	令和7年 1月 15日	～	令和7年 2月 27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	1	(回答者数) 1
○従業者評価実施期間	令和7年 1月 15日	～	令和7年 2月 27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 2月 28日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	身辺自立を目的として、定期的なトイレ誘導、トイレへの抵抗感をなくし、便座に座らせる時間を長くしていくなど、トイレトレーニングを充実させている。また、食具を使った食事、衣類の着脱などの支援を行っている。	身辺自立の支援については、保護者からの要求も高いため、日々の活動の中に取り入れながら取り組んでいる。	トイレトレーニングの際に、子どもが好きなキャラクターシートを提供するなど、興味関心を引き出しながら、身辺自立を促す工夫をしていく。
2	保護者との密な情報交換	連絡帳を通じたきめ細かな対応を行うべく、保護者からのコメントには漏れなく丁寧に対応している。	職員間での共有が必要な保護者からのコメントについては、朝礼などの職員が会する時間を設け、情報共有を行っている。
3	子どもたちの能力や特性に合わせてプログラムの取り組み方法に変化をつけ、効果的に療育を実施している。	同じプログラムでも、能力や特性に合わせてアプローチ方法を変えている。子どもたちが楽しみながらチャレンジできる環境を整え、成功体験を重ねて自主的に行動を起こすことができるよう工夫している。	子どもたちの能力や特性について、各職員間で共有し、プログラムの進め方を具体的に検討していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者会や保護者同士の交流が出来ていない。	就労状況や家庭の事情等で時間に制限がある保護者が多く、保護者が一同に会し、交流を行うことは難しい。	保護者会や保護者同士の交流に代わるものを検討する。また、一度に集まる人数や時間をこまかく設定し、慎重に企画をしていく。
2	パート、社員と従業員がシフトで勤務するため、情報の共有に時間がかかる。	出勤日数や時間のずれから同じタイミングでミーティングや振り返りを行うことが難しい場合がある。	SNSなどを活用することにより、情報の共有を細かく行うことができるよう努める。
3	専門職員による支援を受けることが難しい。	作業療法士、言語聴覚士、心理士、看護師など専門職による直接支援が望ましいが、現段階では全ての専門職員が確保出来ていない。	職員の研修も積極的に取り入れ、専門性につながる支援のスキルアップにつなげていく。

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	こぼんはうすさくら辻堂教室（放課後等デイサービス）		
○保護者評価実施期間	令和7年 1月 15日		～ 令和7年 2月 27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20	(回答者数) 16
○従業者評価実施期間	令和7年 1月 15日		～ 令和7年 2月 27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 2月 28日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	海や公園が近く、活動の幅を室内だけではなく、外にも広げることが容易である。	人数や天候、お子様の様子を見て、室内から出て、身体全体を使ったダイナミックな活動が必要であると思われるときは、それを取り入れ、お子様の要求に応えるようにしている。	室内だけではなく、外での活動を充実させるため、職員から活動内容のアイデアを募集したり、調べたりする取り組みをしていきたい。
2	近隣にお買い物ができる飲食店などがあり、お買い物訓練などの活動を充実させ、社会との接点を保持することができる。	近隣にお買い物に行き、社会との接点を保持することにより、社会生活におけるルールやマナーを学んでいくことを心掛けている。	室内でも擬似的なお買い物訓練を繰り返し行うことにより、実際にお買い物を行う時にも抵抗がないよう工夫している。
3	子どもたちの能力や特性に合わせてプログラムの取り組み方法に変化をつけ、効果的に療育を実施している。	同じプログラムでも、能力や特性に合わせてアプローチ方法を変えている。子どもたちが楽しみながらチャレンジできる環境を整え、成功体験を重ねて自主的に行動を起こすことができるよう工夫している。	子どもたちの能力や特性について、各職員間で共有し、プログラムの進め方を具体的に検討していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者会や保護者同士の交流が出来ていない。	就労状況や家庭の事情等で時間に制限がある保護者が多く、保護者が一同に会し、交流を行うことは難しい。	保護者会や保護者同士の交流に代わるものを検討する。また、一度に集まる人数や時間をこまかく設定し、慎重に企画をしていく。
2	パート、社員と従業員がシフトで勤務するため、情報の共有に時間がかかる。	出勤日数や時間のずれから同じタイミングでミーティングや振り返りを行うことが難しい場合がある。	SNSなどを活用することにより、情報の共有を細かく行うことができるよう努める。
3	専門職員による支援を受けることが難しい。	作業療法士、言語聴覚士、心理士、看護師など専門職による直接支援が望ましいが、現段階では全ての専門職員が確保出来ていない。	職員の研修も積極的に取り入れ、専門性につながる支援のスキルアップにつなげていく。